



学校だより

ひびき

令和5年4月28日

5月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

新しい学びの推進

学校長 大塩 啓介

初夏のさわやかな季節となりました。季節の花も、桜からつつじと変わり、もう少ししたら紫陽花でしょうか。先日、始業式、入学式を行ったばかりのような気がしていましたが、もう一カ月も経つのかと驚いています。教室をのぞけば、一年生も随分と小学生らしくなり、たくましさも感じるようになりました。2年生以上の学年も、それぞれに成長が感じられ、先日は横浜市の学力・学習状況調査にも緊張した面持ちで取り組んでいました。

横浜市では、この学力・学習状況調査について、昨年度から個人の成長が見られるように変更してきました。昨年度はその試行ということで、一部の学校だけでしたが、今年度から全校実施となりました。個人の伸びを図ることで、個別最適な学びの在り方を考えていくこととなります。学校の授業は一斉授業ではありますが、その中でどのような個別最適な学びを進めていくことができるのか。個々に違いがある中で、こうしたらよいという最適解はまだありません。児童個々の状況に合わせて、担任が試行錯誤しながら進めていくこととなります。

また、本年度、本校は文科省からの指定を受けたリーディングDXスクール試行校となっています。これは、全国で100校が選ばれ行われるものですが、横浜市から小学校は本校の1校だけとなっています。簡単に言うと、ICT、端末の普段使いの研究校ということになります。既に、昨年度から、端末の持ち帰り校として進めており、スマイルネクストなどICTを活用したドリル学習を行っています。授業においては、どの教室でも端末を活用し、考えの共有や、自分の意見の発信など、新学習指導要領に沿った新しい学習を展開しています。「主体的」「対話的」「深い学び」をキーワードに、端末活用を進めています。低学年であれば、カメラ機能を使った草花の撮影によって、その場では分からなかった花の仕組みに気付くこともあります。高学年の図工では、クレイアニメーションのような動画を作ることもしています。これまでに考えられなかったような新しい使い方を創造していくことを、今年度は取り組んでまいります。

とはいえ、心配事がないわけではありません。数年前にもありましたが、ICT推進に起因する事件が起きないとは言えません。端末の活用と同時に、ICTに関わるモラル、情報リテラシーの育成を同時に図っていく必要があります。学校でも指導してまいります。ご家庭のご協力も必要などころが出てこようかと思えます。

コロナ禍が一段落といった今年度、新たな学びを獅子ヶ谷小学校では進めていきます。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。